

福島原発事故による放射能汚染に関する商業紙報道の見出し・概要（平成23年）

		新聞	掲載面	掲載日
空間線量	空間放射線量が局地的に高い「ホットスポット」が関東地方で見つかる。：「短期的スパンで、関東地方の空間線量に大きな変化は出ないのではないか」首都大学東京准教授	東京	4面	8.14
空間線量	第一原発から南西に約1.5キロ離れた福島県大熊町大沢で、毎時139マイクロシーベルト。住民避難の目安となっている毎時3.8マイクロ・シーベルトの約36倍に相当。	読売	2面	9.2
政府対応	細野豪志原発事故担当相警戒区域や計画的避難区域での除染実施に向け、除染のモデル事業を始めることを明らかに。	信毎	27面	8.18
政府対応	国は12月中旬にも福島県以外の地域も本格的に除染することを狙いとして「汚染状況重点調査地域」の指定を始める。市町村側は全域が汚染されているとの誤解を恐れ、指定に躊躇。	読売	3面	11.27
地域社会	福島県庁近くのホットスポットである渡利地区では子供の夏休みを機に自主避難する家族が相次ぎ、地域社会の崩壊に歯止めがかからない。	信毎	10面	8.2
地域社会	震災から半年も県外への避難者は5万人を超え、子供の転校も相次ぐ。復興のめどが立たない中、県人口は33年ぶりに200万人の大台を割る。	読売	25面	9.9
地域社会	政府10月30日に緊急時避難準備区域を解除。同区域では地域医療の再建や雇用不安の解消や生活基盤の整備など問題が山積しているが、まずは放射性物質の除染が急務である。	読売	3面	10.1
地域社会	福島県の小中学生、県外へ8700人転校する。：子どもたちは放射能汚染によるストレスや友達との別れに耐えている。	東京	27面	8.14
地域社会	岩手、宮城、福島の3県で計11人の高校生が中途退学。：親の失業で苦しかった家計を支える、「転居先からの通学が難しい」：雇用環境の改善なければ今後も退学者が出ることが懸念される。	長日	4面	10.10
原発	東京電力は5月17日、福島原発事故の収束に向けた新工程表は「余震対策」と作業員の「環境改善」の2分野を加えた。また「冠水(水棺)」を事実上断念し、「循環注水冷却」に切り替える。	読売	1・3・15面	5.18
原発	東電は6月4日福島第一原発一号機の原子炉建屋内で事故以来最大の値である毎時4000ミリシーベルトを観測。周囲での作業は予定しておらずロボットで継続的に監視する予定。	千日	19面	6.5
原発	経済産業省原子力安全・保安院は原発事故直後に放出された放射性物質の量を77万テラベクレルと従来の推計を2倍強に上方修正する解析を発表。政府は報告書をIAEAに提出する。	千日	20面	6.7
原発	福島原発の現在の放射性物質放出量は事故当初の約1000万分の一に相当するとの推定	信毎	1面	8.18
原発	福島原発事故から半年。「放出される放射線量の大幅抑制」を目指すステップ2が進められている。汚染水処理を安定化し、原子炉を冷温停止に持ち込むことができるか。	読売	24面	9.9
原発	東電、従来の見解である2号機での水素爆発を否定する。「想定できなかった」「やむを得なかった」など自己弁護の姿勢目立つ。	読売	1面	10.2
原発	事故後初めて報道陣に公開された原発敷地内は、8ヶ月経過した今も生々しいきずあとをさらけだしていた。：原子炉建屋は激しく崩れ落ち、設備は大津波で大破。目に見えない放射線の恐	読売	39面	11.13

土壌汚染	3月15日に放出された放射性物質がその日のうちに長野市の上空に到達し、遅くとも1週間程度で土壌に移行。信大教授調べ	信毎	35面	9.16
土壌汚染	警戒区域と計画的避難区域の大半を占める山間部の森林の除染は手付かずとなっており、事実上不可能だとする専門家もいるが、放置すれば住民の帰還の障害になる恐れがある。	東京	2面	9.4
土壌汚染	文部科学省は11月25日放射性セシウムの測定結果をまとめた東日本の汚染地図を公表。	読売	34面	11.26
土壌汚染	文部科学省は9月30日、プルトニウムとストロンチウムの土壌汚染状況をまとめた地図を公表。：プルトニウムは福島県双葉町、浪江町と飯館村の計6ヶ所から検出。ストロンチウムは45ヶ	読売	39面	10.1
土壌汚染・空間線量	林野庁は福島県の森林で放射性セシウムの空間線量と土壌汚染に関する調査開始を表明。調査結果に基づく濃度地図を作成し、同庁ホームページなどに掲載予定。	信毎	30面	9.18
除染	農林水産省は9月14日ヒマワリには放射性セシウムを吸収する効果はほとんどないとの実験結果を発表。	読売	38面	9.15
処理問題	放射性セシウムが付着した焼却灰について、1キログラム当たり10万ベクレルまでのものはセメントで固化すれば安全に埋め立てられるとの方針をまとめた。	読売	37面	9.1
被曝	放射性セシウムが人体に与える影響はわかっていない。：結局はチェルノブイリでこれから何が起きるか長期的に見ていくしかないが、基準は厳しいほどいい。：松本市長かつ医師である菅	中日	2面	11.20
被曝	南相馬市の産科医：被災地での出産を覚悟した妊婦たちを応援したい。：行政指導が遅れる中、線量計を渡して被曝量測り、データを基に被曝を減らす生活指導を続けている。	信毎	33面	11.27
被曝	福島県では18歳以下の子どもを対象として甲状腺検査を開始した。：約36万人を生涯にわたってチェックする世界的に例のない規模の調査となる。	山日	18面	10.10
食料汚染	放射性物質の暫定基準値 国の設定は場当たりではないか？：「飲料水よりも、海水浴場の海水の基準値が高いのはなぜか」「どうして人の主食のコメより牛の餌の方が厳しいのか？」など	信毎	3面	9.20
食料汚染	放射線の影響が低線量で起こるとしても他の原因に比べて大きくない。：実行可能な目標値として基準値がある。：基準値は国民が信頼できるものでなければならない。大分県立看護科学大	信毎	14面	9.18
食料汚染	「浄水器で放射性物質を完全に除去」の広告に根拠がないとして、東京都が行政指導に乗り出した。	東京	1面	8.2
食料汚染	世界の約百十種類の稲を使い、水田の土壌に含まれる放射性セシウムがどのくらいコメに移行するかを調べる実験が始まる。セシウムを吸収しにくい品種を見つけるのが目的。	東京	6面	8.22
食料汚染	福島原発事故後漁を自粛してきた福島県の沿岸漁業者が、8月中にもヒラメやカレイの試験操業を始める。：風評被害悩みのタネ：環境保護団体などは水産庁に海域名の表示を義務付けるよ	読売	31面	8.17
自主的な線量計測	放射線の測り方：測定器のスイッチを入れ、しばらくして数値が安定するならその数値を。数値が変化するなら平均をとる。：ガイガーカウンター（機種名）の場合はアルミ製の鍋に入れて測る	読売	19面	8.17
自主的な線量計測	放射線検査機器は種類によって精度も異なり、食品の検査に適さないものもある。	読売	21面	9.15
国際関連	国連は9月14日、福島原発事故を受けた原子力安全に関する報告書を公表し、想定が「甘すぎた」と指摘。また地球規模でリアルタイムの放射線量をまとめる観測システムをIAEAが構築する	山日	5面	9.16

国際関連	米国のジョン・ルーズ駐日大使「日米は緊密な連携と意思の疎通が大事だ」「事故の教訓は日米はもちろん国際社会が学ばなければいけない」	読売	3面	9.16
------	--	----	----	------

朝日新聞・毎日新聞 記事見出し一覧

空間線量	放射線 気が気でない:柏・松戸地域 母親ら「ホットスポットでは...」:市が測定 首都圏でも拡大	朝日	19面	6.17
海洋汚染	海の放射能調査「高感度分析を」	朝日	6面	7.26
海洋汚染	汚染水 海に150リットル流出:福島第一・漏水 5月以来の確認	朝日	3面	12.7
除染	放射能 国が除染:民自公合意 特別地域を指定	朝日	1面	8.16
除染	汚染土壌 水で洗浄 東北大開発 粘土にセシウム吸着	毎日	6面	9.7
除染	除染・測定 対応に差:国が二つの「物差し」:現場「わかりにくい」	朝日	33面	12.7
除染	除染 市民なしに進まぬ:計9時間の対話経て:「国待ちの姿勢 転換:混乱や反発が生まれる例も	朝日	27面	12.8
除染	除染 世界に先例:国際シンポ:除染地の将来像 住民らと考える	朝日	32面	10.27
除染	森林除染 落ち葉カギ:セシウム9割蓄積:筑波大など調査	朝日	7面	9.14
除染	除染基準5ミリシーベルト:環境省方針 除去量 最大2900万m ³	朝日	1面	9.28
除染	除染基準 満たさぬ安心:地元への説明不可欠	朝日	3面	9.28
除染	土のセシウム 除去法開発:京都大 粘土少なければ有効	朝日	4面	8.17
除染	除染 教師ら懸命:「笑顔の教室 取り戻す」:3時間ルール続く:広がる放射線対策	朝日	2面	9.7
除染	新種の藻 除染効果あり:山梨大など確認:放射性物質 吸着し離さず	朝日	37面	10.19
処理問題	たまる焼却灰 悲鳴:東葛、基準下回らず満杯目前:「家庭ごみ出せるか...瀬戸際」:汚染灰の一	朝日	29面	9.28
原発	1号機溶融燃料 最大65センチ侵食:福島第一 東電が格納容器解析	朝日	3面	12.1
食料汚染	夏野菜ひとまず安心:各地で放射能汚染調査:トマト・キュウリ... ほぼ不検出 ウメ・モモ 基準	朝日	27面	8.11
食料汚染	キノコ、原木が汚染か:福島産 出荷停止相次ぐ:原木、県外に流通か:キノコ狩りにも打撃	朝日	38面	9.7
食料汚染	伊藤のシイタケ 基準超セシウム:出荷自粛・回収を要請	朝日	38面	10.15
食料汚染	食品の放射能基準どうなるんじゃ?:生涯被爆量を基に、品目ごとの値を見直すんだ	朝日	2面	9.16
食料汚染	福島のコメ 粗い検査:安全宣言後、相次ぐ基準値超え:サンプル数少なく「漏れ」:進まぬ原因究	朝日	38面	12.10

食料汚染	「安全宣言」高いリスク:農作物の放射能汚染: BSE 苦い記憶: 取り戻せぬミス	朝日	37面	12.7
食料汚染	お米や野菜のセシウム、気になるわ:「移行係数」を調べると、含まれる量がわかるよ	朝日	2面	9.25
核種	放射性物質と危険性:最も脅威は放射性セシウム	朝日	e6面	11.26
核種	放射性物質、いろいろ聞くけど?:原発燃料のウランが核分裂し80種類ができるよ	朝日	2面	11.27
核種	半減期長いセシウム	毎日	10面	10.2
原発	原発事故 離れて指揮:代替拠点 立地見直し:国のオフサイトセンター:福島 線量上がり孤立	朝日	39面	12.4
原発	作業員被曝上限 事故前の基準に 厚労省発表	朝日	7面	10.15
被曝	内部被ばくだけの数値明示を:数100ミリでも影響ないとの指摘も:平時と緊急時 分けた議論なく	毎日	7面	8.17
被曝	被曝予防に花粉マスク 東大で実験 セシウム吸引せず	朝日	38面	12.1
被曝	外部被曝推計値 18例を公表:住民、怒りと戸惑い:避難指示早ければ:人と思ってない:今さら示	朝日	15面	12.13
被曝	外部被曝 住民最高14.5ミリ:推計シーベルト 行動別試算も 福島県発表:37ミリ、原発作業員か	朝日	1面	12.13
被曝	野生動物も被曝量調査:福島県 来月から:「森の異変から人の未来占う」	朝日	1面	5.25
被曝	生涯被曝「100ミリ基準»:食品から体内+外部被曝 総量:食品安全委案:わかりやすい具体的	朝日	7面	7.22
被曝	被曝から子を守る 母の立場で:素朴な疑問、率直にぶつける	朝日	3面	8.16
被曝	住民の内部被曝推計 最高2ミリシーベルト	朝日	38面	9.13
土壌汚染	側溝にストロンチウム 横浜市発表 129ベクレル、噴水でも検出:20キロ圏内と同程度の汚染	朝日	39面	10.15
土壌汚染	「高濃度」市民ら戸惑い:柏 なぜ? 詳細調査まだ:鎌ヶ谷市 私有地でも測定:我孫子の小学校	朝日	33面	10.26
土壌汚染	芝生シート高線量 杉並の小学校:セシウム 9万ベクレル	朝日	15面	12.13
土壌汚染	気象研観測 3月のセシウム:過去最高値の50倍超	朝日	7面	12.2
国民の声	汚染農地での栽培方法示せ	朝日	16面	12.6
国際関連	日本の脱原発「今こそ»:ドイツ緑の党議員 指摘	朝日	13面	5.24
国際関連	仏に「脱原発」の機運:大統領選、初の争点に:電力の8割依存:民間団体「33年に停止可能」	朝日	3面	10.3
国際関連	免疫力 異なる見解	朝日	3面	12.11
国際関連	ソウル 放射能検出330トン処理できず:汚染材 撤去し野ざらし:国と区、押し付け合い:原発廃棄	朝日	8面	12.13
国際関連	森のキノコ食べても	朝日	3面	12.13

国際関連	原発規制 10年ごと審査:IAEA、調査団派遣案	朝日	5面	8.16
国際関連	海の放射能汚染 日本の発表以上:中国海洋局が見解	朝日	5面	8.16
国際関連	「除染やりすぎは非効率」IAEA調査団が助言	朝日	1面	10.15
国際関連	「我が国でも起きうるのか」海外も見つめた:米政府ルートで特報 米メディア:日本の報道、追及	朝日	25面	10.15
国際関連	海外の原発事故 教訓は:与野党議員が視察:内部被曝をどう防ぐか チェルノブイリ:安全規制	朝日	4面	10.24
国際関連	放射線健康被害:WHO 専門部局廃止:IAEAに主導権:「原子力 推進と監視掌握」	毎日	1面	9.18
国際関連	IAEAがWHO「制約」:戦後の国際秩序反映:86、05年の「強化」に是正の声なく:チェルノブイリ	毎日	6面	9.18

* 医学生による編集掲載